

町誌編さん室の

島のむんがたり

花時名にあった宝迫鉱山

徳之島の鉱山と言えば下久志銅山、松原銅山が知られていますが、実はもう一つ宝迫鉱山という大きな銅山が母間にありました。

徳之島で最初に発見された鉱山は下久志銅山で、発見者は孝橋安兵衛という人でした。明治35年のことです。当時は、国策によって国内で鉱山開発ブームが巻き起こっていて、明治40年の記録ですが、国への鉱山試掘願いは8667件にも及んだそうです。一攫千金の夢を持った山師たち

が全国の山々を歩き回っていました。

大正15年、母間花時名でも鉱山開発が始まりました。発見者は不明ですが、日本鉱業株式会社という古河鉱業と並ぶ大財閥でした。副産物として金や銀も採れたようです。太平洋戦争が激化し始めた昭和18年まで経営されました。その地名から「宝迫鉱山」と呼ばれました。



インクラの崖

花徳との境界付近にインクラという場所があって、鉱山からトロッコで運び出した鉱石をウインチを使って仮置きしました。インクラと言う地名は、ウインチのクラッチを「イン」するからついたという話が残っています※。そこからトマイハマ（現・花時名港）の空き地に荷馬車で運んで集積し、程よい量になると貨物船がやってきて、大分の佐賀関製錬所へ輸送しました。昭和15年頃に造った貨物船が係留した杭は、今でもフウサナキの先に残っています。鉱山は農業、紬業と合わせて母間の三大基幹産業と言われたほ

ど重要な産業でした。

宝迫鉱山は、小学校1、2年生の遠足地にもなっていました。鉱山からインクラまで続くレールをトロッコが走る様子や、真つ暗な坑道内を見学しましたが、見るものどつてこの時の感動は一生忘れられないものになったそうです。

昭和27年に本土業者によって宝迫鉱山再開発の動きがあり、鉱山開発本部まで設置されましたが、結局採算が合わないと判断されました。地元では、一時鉱山の再開に色めきたちましたが、開発断念の発表に大変落胆したそうです。

銅が採掘されていた頃の宝迫の山肌は、赤茶けて樹木もまばらだったそうですが、現在は鬱蒼とした自然豊かな森が広がり、ここに銅山があったとは想像できません。

(町誌編さん室 米田博久)



鉱山近くの伊宝川上流



鉱石にならない捨石の山

問 郷土資料館
☎ 0997-82-2908

※インクラの地名は、地形が犬の背中のように丸まっているからという説もあります。